

地球温暖化防止をめざした消費者への取り組みの現状分析と提案  
—地球環境保全に向けて その1—

正会員 ○ 藤本 香 \*1  
正会員 石川 孝重\*2  
正会員 野田千津子\*3

地球温暖化 リタイア層 地域  
消費者 実践 地球環境

§ 1 はじめに

2005年2月に京都議定書が発効し、温室効果ガスの着実な削減には、国民一人一人の自主的な実践が不可欠となっている。本報では国、財団法人・社団法人、NPO・NGOの地球温暖化防止に関する取り組みの事例調査を基に、地球温暖化防止の効果を上げるために、リタイア層による地域での取り組みを提案する。

§ 2 地球温暖化防止に向けた取り組みの現状

消費者に対する地球温暖化防止へ向けた取り組みの現状を知るため、国、財団法人・社団法人5団体、NPO・NGO約40団体の取り組み事例を調査した。全278の事例は、主に各団体のホームページ<sup>1)</sup>や関連する資料<sup>2)</sup>などから抽出した。

図1は、抽出した事例の目的と使用しているツールを線で結び、その関係を示したものである。太い線はそれぞれの目的に多く用いられているツールであり、取り組み

みの目的によって多く使用されているツールが異なる。特に、教育を目的とした取り組みでは様々なツールを使用しているが、その中でもWebや冊子、セミナーなどを用いることが多い。

国による取り組みは、Webや冊子、イベントなど、一方向で多数に向けたものが多い。比較して、規模の小さいNGO・NPOなどでは、教育を目的とした取り組みでも、見学会やセミナーなどを用いた対面や体験を意識した取り組みが主流である。さらに、地域に密着して活動するNGO・NPOでは、地球温暖化防止に向けた働きかけだけでなく、省エネ家電に買い換えるための無利子融資など、実践を促す取り組みが存在する。

§ 3 活動の担い手となるリタイア層の意識と現状

地域活動の担い手として、リタイア層は地域社会の中で重要な位置を占めると考えられる。そこで、提案の担い手となるリタイア層を含む高齢者の意識や現状を調査した。

内閣府が行った平成15年度の調査<sup>3)</sup>から、高齢者の意識を探る。最も力を入れた活動の時期は、退職後が30.7%、子供の自立後が19.0%と続いている。今後参加したい活動は、スポーツや健康、趣味だけでなく、地域行事やまちづくりなどの生活環境改善に参加したい人も一定の割合で存在する。

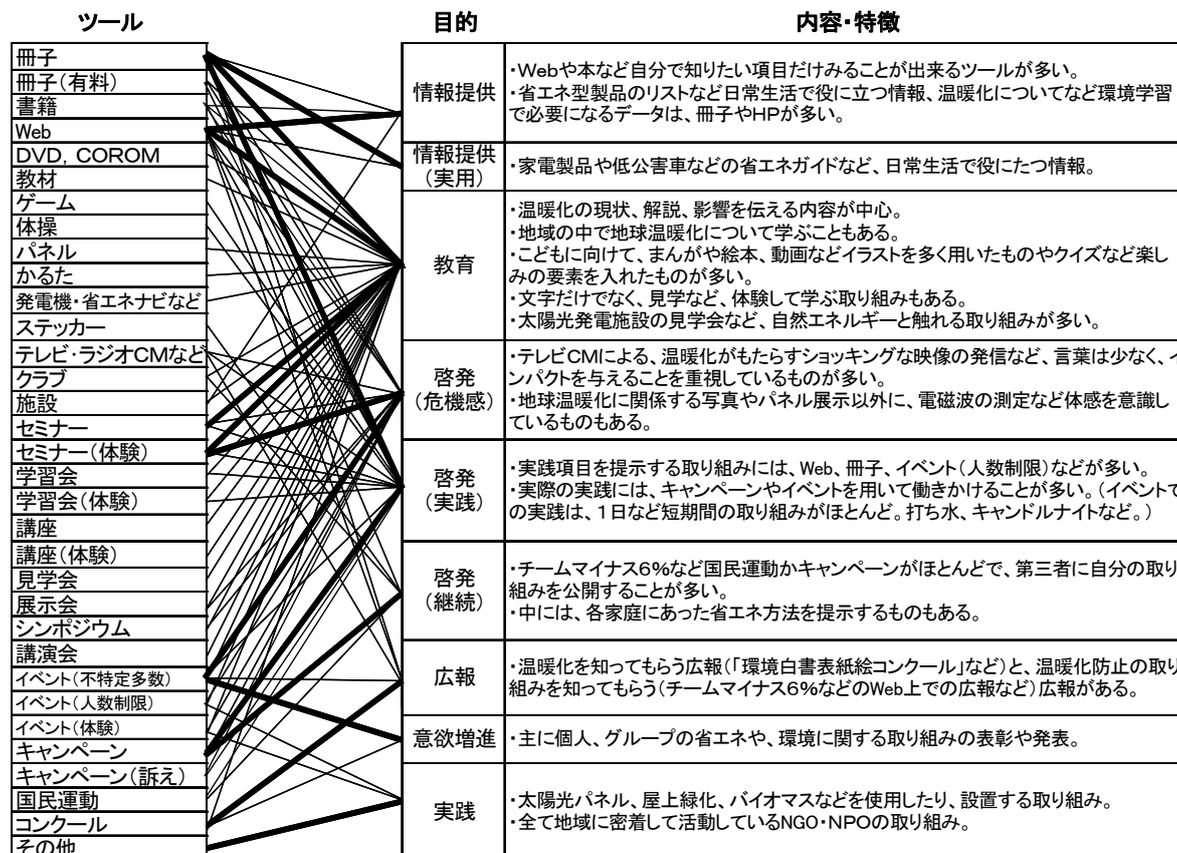


図1 地球温暖化防止の取り組みのツールと目的・内容の関係

退職者の地域との関わり方については、地域活動に目を向ける手だてが必要と考える人が50.7%、職場等の交友関係を重視する人は23.5%であるが、平成10年の調査と比べ、地域活動に重点を置く人は減少し、交友関係に重点を置く人が増加する傾向にある。

また高齢者18団体の活動事例から、高齢者の地域活動は特技や趣味、経験を生かした取り組みが中心で、昔の話や遊びを小学校で行ったり、高齢者同士で教え合うパソコン教室などがある。多くの参加者は生きがいや仲間作りなどの楽しみ、人の役に立っているというやりがい等の理由から始め、活動を継続している。

さらに、60～70歳の男性7名、女性5名の12名を対象に30分程度個別にヒアリングを行った。12名中10名は豊玉高齢者センターの利用者である。その結果、退職後は趣味などの楽しみを中心とした活動に参加することを求めており、大きな労力を伴う活動は負担に感じている。また、活動を主体的に行う場合にも、価値観が同じ少数人数での活動を望んでいる人が多い。また、退職後は夫婦共に友人を自宅に呼びにくい、自宅に居づらくなるという声もあった。

また、調査を行った高齢者センターでは、太極拳などの体操やパソコン、趣味に関連する講座が開催されている。その中でパソコン講習会は定員8名に対し30名程の募集があり好評で、60代の人を中心に参加している。利用者から得意な趣味などを使って何か出来ないかという提案がもちかけられる場合もある。このような利用者の働きかけから、バイオリンや合唱のコンサートが、実現していることなどがわかった。

#### §4 地球温暖化防止に向けた地域活動の提案

これらの調査結果をふまえ、リタイア層が主体となり、実践を中心とした活動を地域の中で進めていくための活動内容を1年の流れとして図2に提案する。

ヒアリング調査より、日常的に省エネや物を大切にすることを観点をもっている人は多い。これを活かし「一ヶ月チャレンジ」の期間をおく。一定の期間を設定することでメリハリをつけ、生活の中での実践を行いやすくする。「一ヶ月チャレンジ」のテーマとしては、ゴミや自然エネルギーなど身近な事柄を設定する。「一ヶ月チャレンジ」の期間中は、実践以外にテーマに関係する「普段捨てているものをおいしく食べよう」などのミニイベントや情報交換等を行う。その成果は、回覧板等を作成して公開し、地域へ向けた啓発や活動を広めることを目指す。

また、リタイア層の多くは価値観が同じ少数人数での活動を望み、退職後は自宅に居づらいつ感じている人もいるため、公民館の開放などを通してシニアサロンを開催

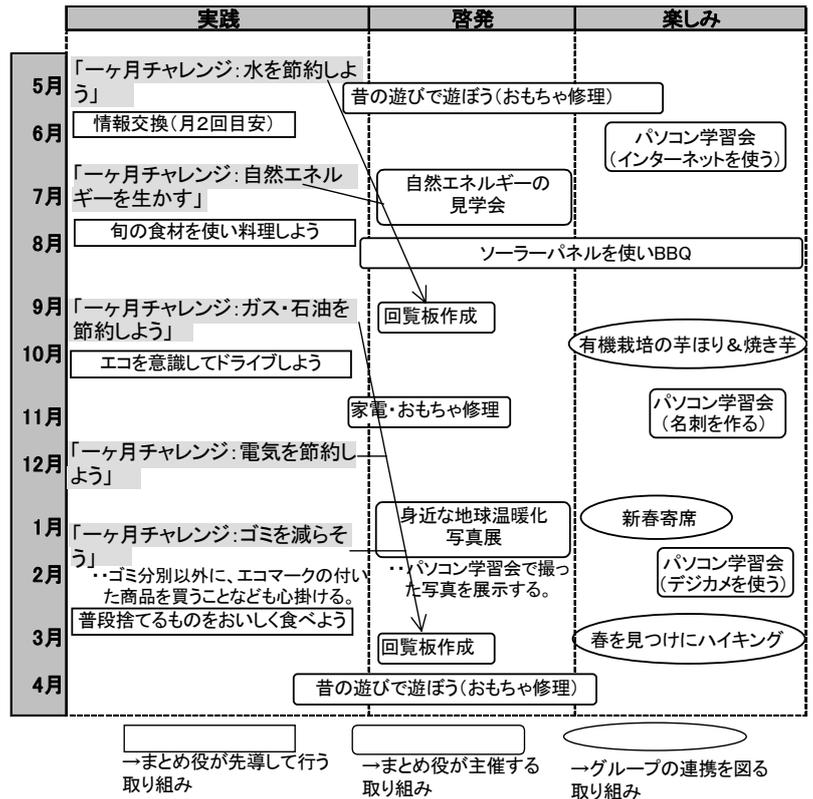


図2 地球温暖化防止を目的とした地域活動の提案

し、集まる場所の少ないリタイア層の親しいグループを自宅の外に出す場を設ける。この既存のグループを「一ヶ月チャレンジ」実践の活動単位とする。このグループ自体は楽しみのものであるため持続性は望めるが、地域活動としての自主性は望めない。そのため、専門家のサポートを受けながら地球温暖化防止に意識の強いグループがまとめ役となり、活動を進めていく役割を担う。グループ間の交流や修理、パソコンを教えるなどの知識経験を生かす場、地域における交流等も、まとめ役がかかわることで推進できると考える。

#### §5 おわりに

現状の地球温暖化防止に向けた取り組みの多くは、意識的な働きかけにとどまっていることがわかった。実践行動を促すために、リタイア層の楽しみや地域での活動の場をつくることで、地球温暖化防止活動の進展に有効に働くものと考えられる。

ヒアリング調査にご協力戴いた豊玉高齢者センターの職員・利用者をはじめ多くの方々には謝意を表す。

#### 【引用文献】

- 1) 環境省：環境省ホームページ，<http://www.env.go.jp/>，2005年6月18日。
- 2) 環境省：急激に温暖化した二十世紀，危機はすでの始まっている。、全国地球温暖化防止活動推進センター，2004年11月。
- 3) 内閣府：平成15年高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果の概要，[http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15\\_sougou/gaiyou.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15_sougou/gaiyou.html)，2005年9月15日。

\*1 元日本女子大学住居学科  
 \*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士  
 \*3 日本女子大学住居学科 学術研究員・修士(家政学)

\*1 Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ.  
 \*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.  
 \*3 Research Fellow, Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., M.H.E.